

第3回 越谷市まち・ひと・しごと創生懇談会（H27.11.17）の記録

議事 まち・ひと・しごと創生「越谷市総合戦略（案）」について

委員：本市の人口で平成26年から27年にかけて約4,000人増加している主な要因は。

→レイクタウン開発等による転入増加と考えられる。しかし平成33年をピークに人口減に転じる予測をしている。（事務局）

委員：人口ビジョンが弱すぎる。国の考え方に習う必要があるのか。これでは志が低いので、さらに高みを目指すべきである。

委員：正規・非正規別の女性の就労率が低いというデータを掲載すべきである。

委員：「非正規で働く母子家庭が多い状況」とあるが、非正規と母子家庭は別議論である。国・県も総合戦略に入れている女性の雇用対策の視点が不足している。

委員：掲載した事業を展開したときにどの程度の予算がかかるのか。絵に描いた餅にならないか。

→総合振興計画後期基本計画にはすべての分野で事業を掲載しているが、総合戦略は4つの基本目標に絞っている。財政的裏づけについては、実施計画の中で歳入歳出を予測した財政フレームを設定し収める作業を行っている。厳しい財政予測を立てているが、総合戦略には予算的裏づけは求められていないため、ある程度ふるいにかけてうえで併せてリーディングプロジェクトを掲載していく予定である。（事務局）

委員：雇用をいかに生み仕事を増やし増収を目指すか、そのことを考えなければ今後のまちづくりは進まない。そこに向けた目標値としてはあまりに低い、情けない数値設定であると思う。

委員：基本目標4で「昼夜間人口比率」を指標としているが、具体的施策と合致していないので再検討を要する。

委員：基本目標4に「人口減少による低密度化の傾向をゆったりとした豊かな居住環境ととらえるとともに」とあるが、首都圏業務核都市構想の考え方と乖離があるので整合を図り記述を精査するべきである。

委員：指標に基準値を設けているが、それが高いのか低いのか一般の人が見てもわからない。他自治体と比べるなど物差しが必要ではないか。

委員：表題が「越谷市総合戦略」だけではなく、何をを目指すのかをひとことで表す副題的なものが必要ではないか。

委員：内容的に尖った（特出した）ものがないので情報提供してもメディアとして取り扱いづらい。埼玉県内はどこも同じような抽象的な内容だが、他の消滅危機自治体と言われている自治体は本気度がつかえる。基本目標2に「越谷の魅力年全国に発信し、人を呼び込む」とあるが、例えば発信先を栃木県と福島県に絞るなどの方がインパクトがある。誰に向けて発信し、誰に来てもらいたいのかを明確にされたい。

委員：基本目標の表題（特に基本目標1）がありふれている。市民が見て目指す姿のイメージがわくような、特徴ある魅力的な基本目標とされたい。

委員：オリンピック開催に向け、インバウンドには弊社グループでも注力している。先ほど観光客を倍増させるといった委員の話もあったが、そのぐらい目標を掲げることは必要である。観光には本気で力を入れないと、必死に取り組んでいる他の都市には到底勝てない。越谷には観光の部分が最も足りていないように思う。人口流入数の設定にあたってターゲットの絞り込みは必要なのではないか。そういったものが入ってくると、戦略が具体的な戦術にもなってくる。

委員：基本目標3で「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」とあるが、定量的な目標がほとんど見受けられない。子どもの教育費を考えると子育てにかかる多額の費用が問題となっており、まずは結婚しよう、子どもを産もうと思えることが重要で、情報発信とともにまちとして子育てを応援する仕組みづくりが必要である。

委員：起業、創業に対する制度融資が弱いので充実させるべきである。

委員：基本目標3の指標で「健康教室の参加延べ人数」や「保育年間カリキュラムにおける年間遊具使用保育時間」とあるが、唐突な感じで施策とのつながりが見えてこない。それにより運動能力を向上させるなどとすれば理解しやすい。若い世代を呼び込むためのワークライフバランスを重視し、働きたい女性のために子どもを預かるなど子育て支援策を打ち出す必要がある。「女性が働ける」となれば、必ず若い世代の流入は増えるはずである。

委員：社内でも創業支援に注力している。基本目標1の職住近接を実現するためにも、雇用を創出するという目標をはっきりと打ち出すべきである。雇用を創出するための施策として、創業を増やす、新しい企業の誘致等に関する具体的な目標も設定されたい。

委員：基本目標1の指標で「第2次産業従業者数：2万3千人→1万8千人」とあるが、昨今における製造業の国内回帰傾向も踏まえれば、もう少し前向きな目標を立ててもよいのではないか。

委員：今後の超高齢化社会を乗り切るためには、介護に関して地域住民の無償の労力が必須であり、敬意を表したうえで活用策を打ち出すべきである。

委員：工業団地を見ると、法律上工場の負担により必ず公園を作らなければならないといったことがあるが、工業団地として勤務する人たちのために保育園を作るという方法もある。

委員：総合戦略に記載された取組に特徴、魅力がなく、越谷市の将来に不安を覚える。皆さんからの意見を聞き、幅広くやろうとしすぎなのではないか。例えば、越谷市に住んで働けば税額免除するなどの大胆な施策を打つ必要があるのではないか。

委員：基本目標2の指標で「ホームページアクセス数：103万件/月→120万件/月」とあるが理解不能である。人が定着する、住みたいと思えるまちづくりに向け、全市で同じ方向の将来を見据えた「投資」の考え方が必要である。旧来型の消費イベントだけでなく、金を生む、人を呼び込むための具体的施策を入れ込まれたい。

委員：学校教育に関し、基本目標3に「教職員資質向上事業」とあるが、教職員研究、教育研究、小中学校の密接な連携といったあたりは、その研修・連携の方法が重要であり、創意工夫を願いたい。

委員：主観であるが、総合戦略の副題は「暮らし継がれる越谷」ではどうか。

委員：資金がかかる取組ではあるが、土地活用が重要であり、例えば市と銀行による新たな融資制度導入なども検討してはどうか。また、特徴的な必ず実現できることを入れ込むべきであると考える。

委員：雇用対策などはハローワークとしても積極的に側面支援をしていきたい。

→総合戦略に関しては国から策定に関するマニュアルも出されており、5年間の計画として具体的事業と重要業績評価指標を設けることも必須であるため、メリハリをつけづらい側面もあることをご理解願いたい。本日は示唆に富んだ貴重なご意見を多数いただいたので、対外的にアピールできるような内容に再整理し、本市への定住促進、子どもの確保に向けたまちの魅力づくりがプラスのスパイラルを生むよう、できうる取組をメニュー化し質の高い施策の入れ込み作業を行いたい。(事務局)

以上